

# 排出削減実績報告書

排出削減事業の名称: □

A重油焚炉筒煙管ボイラーからガス焚貫流ボイラーへの更新による排出削減事業

排出削減事業者名 :

杉浦製粉株式会社

排出削減事業共同実施者名 :

株式会社ウェイトボックス

その他関連事業者名 :

## 1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	杉浦製粉株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	杉浦製粉株式会社
住所	〒 736 - 0082 愛知県安城市桜町8番16号
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	株式会社ウェイトボックス

## その他関連事業者

関連事業者名

## 2 排出削減活動の概要

### 2.1 排出削減事業の名称

A重油焚炉煙管ボイラから都市ガス焚貫流ボイラへの更新による排出削減事業

### 2.2 排出削減事業の目的

A重油焚炉煙管ボイラーを都市ガス焚貫流ボイラーへ更新することにより、二酸化炭素排出量の削減を図る。

### 2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

A重油焚炉煙管ボイラ4.8t×1台を都市ガス焚貫流ボイラー2.5t×2台へ更新することにより、二酸化炭素排出量の削減を図る。

### 2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

### 2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

なし

### 3 排出削減活動期間

#### 3.1 プロジェクト開始日

2008 年 8 月 11 日

#### 3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013 年 4 月 1 日  
～ 2016 年 7 月 31 日

### 4 温室効果ガス排出削減量

#### 4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

#### 4.2 活動量

##### 4.2.1 活動量・原単位

なし

##### 4.2.2 活動量の採用根拠

活動量は採用しない。

#### 4.3 事業の範囲(バウンダリー)

注)設備については、申請者の有する設備を個別具体的に記載すること。

本事業のバウンダリーは、燃料供給設備(重油タンク、ガスメーター)、ボイラ、及びその蒸気使用設備である。但し事業実施後は、A重油焚きボイラ2.5t×1台はバウンダリー外。対象設備については2-3温室効果ガス排出量の削減方法にて図示する。

## 5 モニタリング対象指標

排出削減事業計画7.1項を参照して記載。記載内容に変更のある場合、変更理由を項目ごとに記載すること。

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法 ・根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場合、変更理由)
$F_{fuel,i,PJ}$	事業実施後（燃料転換後）燃料の使用量	Nm <sup>3</sup>	1,576,992	燃料供給会社からの請求書を元に算定	
$HV_{fuel,i,PJ}$	事業実施後（燃料転換後）燃料の単位発熱量	MJ/Nm <sup>3</sup>	46.04655	燃料供給会社提供値（高位発熱量） 2015年8月31日まで	
$HV_{fuel,i,PJ}$	事業実施後（燃料転換後）燃料の単位発熱量	MJ/Nm <sup>3</sup>	45.00000	燃料供給会社提供値（高位発熱量） 2015年9月1日以降	
$\epsilon_{PJ}$	事業実施後ボイラー効率	%	86.4%	カタログ値をもとに算定 (高位発熱量)	
$\epsilon_{BL}$	事業実施前ボイラー効率	%	82.65%	カタログ値をもとに算定 (高位発熱量)	
$CF_{fuel,BL}$	A重油の単位発熱量あたりの炭素排出係数	t-C/GJ	0.0193	デフォルト値	
$CF_{fuel,i,PJ}$	都市ガスの単位発熱量あたりの炭素排出係数	t-C/GJ	0.0141	デフォルト値（2013年度）	
			0.0141	デフォルト値（2014年度）	
			0.0141	デフォルト値（2015年度）	
			0.0141	デフォルト値（2016年度）	

## 7 排出削減量の計算

### 7.1 事業実施後排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO <sub>2</sub> 排出量
2013年度	492.68	46.04655	0.0141	1,172.9
2014年度	437.26	46.04655	0.0141	1,040.9
2015年度	477.55	46.04655(8月まで) 45.0000(9月から)	0.0141	1,122.9
2016年度	169.50	45.00000	0.0141	394.3
合計	1,576.99		0.0141	3,731.0
	千Nm <sup>3</sup>	GJ/千Nm <sup>3</sup>	t-C/GJ	t-CO <sub>2</sub>
	EM <sub>PJ</sub>			

### 7.2 ベースライン排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO <sub>2</sub> 排出量
	1,929.4	39.1	0.0193	5,338.7
	kl	GJ/kl	t-C/GJ	t-CO <sub>2</sub>
	EM <sub>BL</sub>			

### 7.3 リークエージ排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO <sub>2</sub> 排出量
	LE			

### 7.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	排出削減量
温室効果ガス排出削減量	ER	1,607

## 8 省エネルギー量

原油換算 (kl)		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン － 実績 (①－②)
1,946.4	1,861.9	84.5

熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律（省エネ法）施行規則第4条に規定する換算係数を使用すること。

$$\text{省エネ量} = 1,946.4 \text{ (kl)} - 1,861.9 \text{ (kl)} = 84.5 \text{ (kl)}$$

9 再生可能エネルギー利用量

	単位	モニタリング期間	#REF!	年	#REF!	月	1	日	
		～	#REF!	年	#REF!	月	31	日	
		エネルギー使用量			熱量換算(GJ)			原油換算(kl)	
		(実績)			(実績)			(実績)	